

第2会場 セクション1 No.3	白鳥病院における医療従事者の災害に関する意識調査
	発表者 鈴木 裕也 (岐阜県 県北西部地域医療センター国保白鳥病院)
	共同研究者 廣瀬 英生 (岐阜県 県北西部地域医療センター国保白鳥病院)

白鳥病院における医療従事者の
災害に関する意識調査

県北西部地域医療センター国保白鳥病院
理学療法士 鈴木 裕也
医師 廣瀬 英生



白鳥病院における医療従事者の災害に関する意識調査を実施したため報告する。近年、全国的に災害被害が頻発しているが我々の地域でも地震や大雨、大雪による災害被害が軽微ながら発生している。

<背景>

災害時の医療継続体制構築には医療従事者の災害に対する適切な知識・対策が必要。しかし災害に対する認識度は把握されておらず災害意識調査を実施することで現状を把握し、災害対策における具体的な課題を明確化することで効果的な研修対策の構築に寄与する

<方法>

白鳥病院の災害ワーキンググループ内で想定される災害被害について多角的に検討し、検討事項や院内マニュアルをもとに具体的な対策に関する認知度を調査するアンケートを実施

対象:白鳥病院に勤務する医療従事者およそ120名を対象

期間:令和7年8月27日～令和7年9月5日

方法:クローズドクエスチョン形式 (Googleフォーム)

内容:①属性 ②自信度 ③認識 ④知識 ⑤受講歴

災害時の医療継続体制の構築には医療従事者の災害に対する適切な知識対策が必要である。しかし災害に対する認識度は把握されておらず、災害意識調査を実施することで現状を把握し、災害対策における具体的な課題を明確化することで効果的な研修対策の構築に寄与することを目的とした。調査は白鳥病院の災害ワーキンググループでの検討事項と院内のマニュアルをもとに具体的な対策に関する認知度を調査するアンケートを実施した。調査は白鳥病院に勤務する全職員を対象として令和7年8月27日から9月

5日までの10日間で実施した。Google フォームを用いたクローズドクエスチョン形式で①属性②自信度③認識④知識⑤研修受講歴を問う内容である。

結果(属性)

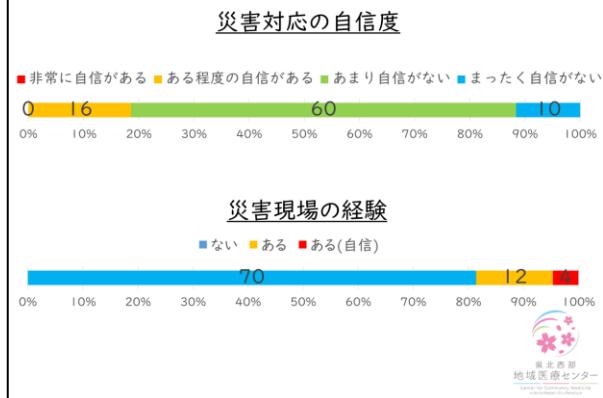
職種	経験年数				
看護師	33	保育士	3	~1	7
事務職員	13	医師	2	1~4	17
リハビリ	10	薬剤師	2	5~9	21
介護福祉士	6	臨床検査技師	2	10~14	6
保健師	4	臨床工学技士	1	15~20	11
診療放射線技師	4	管理栄養士	1	20~	24
介護支援専門員	4	社会福祉士	1		

回答者数: 86名



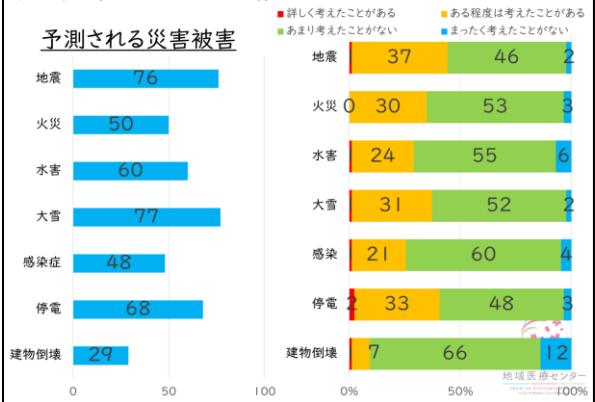
回答は86名から得られ回収率はおよそ72%だった。経験年数は白鳥病院での勤務年数を示すものである。

結果(自信度)



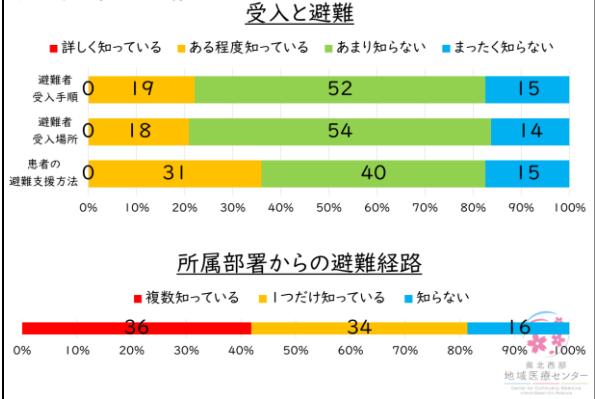
結果は自信度について「非常に自信がある」の回答は0名だった。また8割以上が「あまり自信がない」「まったく自信がない」と回答した。災害現場の経験については16名が経験があると回答したがその中で先の質問に「自信がある」と回答したのは25%の4名に留まり、自信度と現場経験に相関がないことが示唆された。また、その他についても自信度と相関のある項目は無かった。

結果(リスク認識)

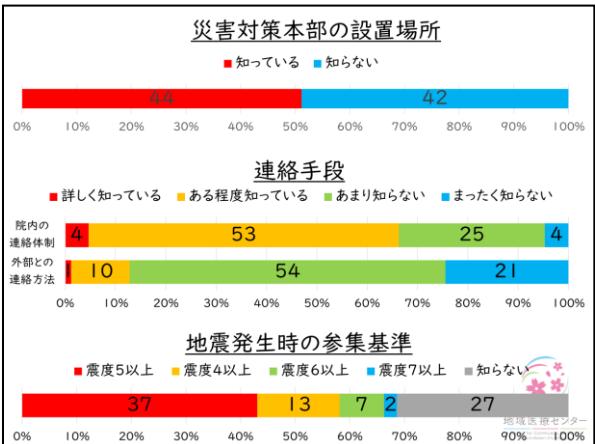


予測される災害被害については当地域で過去に発生している地震、大雨による水害、大雪が多かった。被害の想定について、「考えたことがある」の回答は少なかったが予測される災害と同様の割合だった。

結果(知識)



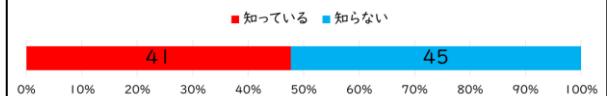
知識を問う内容では患者の受入や避難について 8 割が「知らない」と回答した。避難経路については 8 割以上が「知っている」と回答しており、毎年実施される避難訓練が結果に現れたと考える。



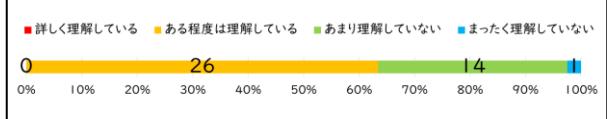
連絡体制については災害対策本部の設置場所は 44 名が「知っている」42 名が「知らない」と回答してお

り半数に割れた。院内の連絡体制については、およそ 7 割が「知っている」と回答しており避難訓練と同様に毎年行う訓練が結果として現れた。相反して外部との連絡方法については「知っている」と回答したのは 1 割のみだった。地震発生時の参集基準について、震度 5 を基準としているが正確な知識として把握できているのは 4 割のみであり、3 割は誤った認識をしており、3 割は「知らない」と回答した。

アクションカードの存在



アクションカードの内容

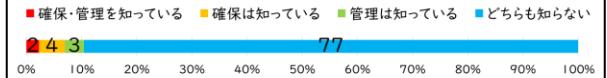


※アクションカード
災害時、避難のために各部署の役割や注意点が記載されたカード
首から提げて確認できるようになっている。
すぐに持ち出せるように各部署に置いている

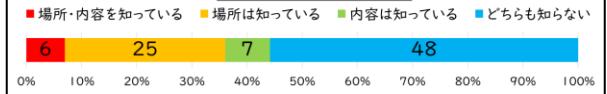


災害時に職種ごとの行動を示すアクションカードの存在については 41 名が「知っている」45 名が「知らない」と回答し、これも半数に割れる結果となった。また、知っていると回答した 41 名の中で内容を理解できているのは「ある程度述べている」の 26 名のみだった。

医薬品の確保・管理方法



備蓄品の場所・内容

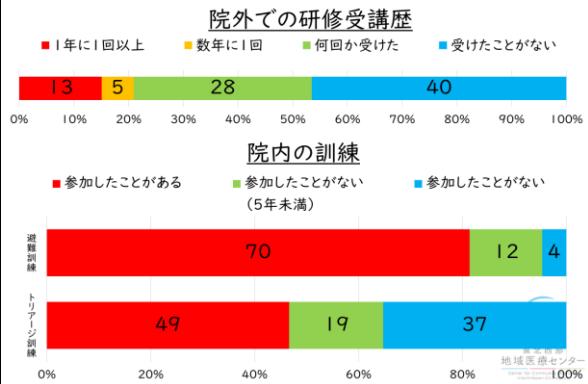


電源の確保など



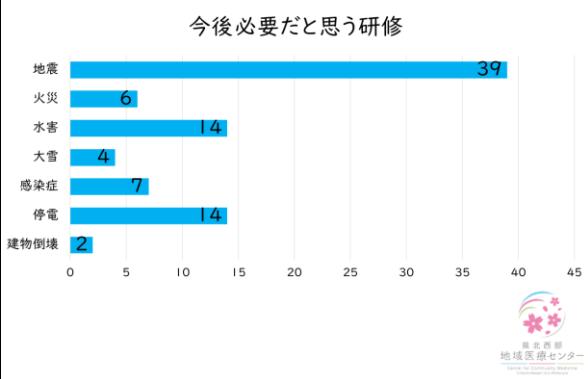
資源の確保について医薬品の「確保・管理を知っている」と回答できたのは薬剤師の 2 名のみだった。備蓄品については「知っている」の割合が増えたが、これも 5 割に満たない結果だった。電子カルテが停止した時の対応や非常用電源の使用方法など電源確保についても同様に「知らない」が多い結果だった。

結果(訓練・研修)



院外での災害に関する研修受講歴は、半数以上が過去に受講歴があったが定期的に受講しているのは2割程度であった。院内の訓練について、避難訓練では8割以上に参加経験があり、「参加したことがない」の16名のうち12名は経験年数5年未満であり、避難訓練が十分に行われていることを示す結果である。一方でトリアージ訓練は過去に一度の実施であり参加経験も半数以下だった。

結果(訓練・研修)



今後、必要だと思う研修については「地震」が多くの回答だった。災害被害が想定される水害やそれに伴う停電も回答が多かった。予測される災害被害では「大雪」についての回答も多くが占めたが、ここでは必要と感じているという回答は少なく興味深い結果だった。

<考察①>

- 自信度は「非常に自信がある」の回答は0人だった。「あまり自信がない」「まったく自信がない」は70人(81.4%)
- 災害現場に「関わったことがある」の中で「自信がある」は4名(25%)でその他に自信度に相関する項目は無かった。
- 可能性が高いと考える災害は地震、大雪、停電が多かった。
- 可能性が高いと考えている災害について想定もされている。
- 知識として「詳しく知っている」はほとんどいなかった。
- 外部からの避難者の受入は「知らない」の割合が多い。外来や入院患者の避難は「知っている」が多い。
- 災害対策本部の設置については半数に割れた

院内の災害マニュアルが更新されて4年経過するが周知されていないことや、知識不足により自信を持って対応することが難しい状況が浮き彫りとなった。

<考察②>

- 外部との連絡方法は「知らない」が大半を占めた。
- 地震発生時の正確な収集基準は43%しか知らない。
- アクションカードの存在は半数が知らない。
- 知っている中でも内容を理解しているのは63.4%だった。
- 資源確保について全項目で半数以上が「知らない」。
- 医薬品の「管理・確保方法を知っている」は薬剤師のみ。
- 研修は半数以上が過去に受講歴がある。
- トリアージ訓練は過去1回開催で半分が参加できていない。
- 地震に関する研修が必要と考えている職員が多い。

院外研修の受講や、院内での訓練について参加率は高いがその知識は実施されている訓練に関わる限定的なものであり、知識不足や誤った認識をしていることが分かった。

<結論>

- 院内の災害マニュアルが最新に更新されてから4年が経過するが周知がされていないことや知識不足により自信をもって対応することが難しい状況が浮き彫りとなった。
- 院外研修の受講や院内の訓練の参加率は高く、実施されている訓練に関わる知識は十分だったが訓練の経験が少ない内容については知識不足や誤った認識をしていることが分かった。専門性の高い訓練やさらに実践的なあらゆる内容のシナリオ訓練が必要だと思われる。



さらに実践的なあらゆる内容のシナリオ訓練やマニュアルに沿った知識についての研修が必要であり、今後の院内訓練や研修をより充実したものにしたい。